

「大深度地下使用認可申請に向けた東京外かく環状道路（関越～東名）の説明会」 質疑応答の概要

（平成25年9月2日（月）武蔵野市立本宿小学校 体育館）

※本資料は平成25年9月2日（月）武蔵野市立本宿小学校 体育館で開催された「大深度地下使用認可申請に向けた東京外かく環状道路（関越～東名）の説明会」での質疑応答の概要を国土交通省東京外かく環状国道事務所が取りまとめたものです。

質問者

- ・ 資料に記載の「振動」と「低周波音」に関する予測結果については、「講ずる措置」を正しく講じた場合に達成できる値なのか。

回答者

（国）

- ・ 表中の値は「講ずる措置」を実施しない場合の予測値であり、実施した場合、値がより低下すると考えられる。

質問者

- ・ 地下水の動きについての説明を求める。
- ・ 施工中の地下水流動の阻害について懸念しているが、影響はないのか。

回答者

（国）

- ・ 地下水の動きについては、深層地下水の水圧の低下量は約1kPa～15kPaという予測結果であり、年間水圧変動幅内であるため、地下水流への影響はわずかであると考えている。施工中と施工後においても地下水の水位変動を、適宜環境影響評価書に基づきモニタリングを行う予定であり、何らかの著しい影響が出た場合は詳細な調査をし、対策を決定する予定である。

質問者

- ・ 地下水の影響をシミュレーション計算する際の条件は公開されているのか。
- ・ 浅層地下水への影響に関する説明が無い。浅層地下水に関して、地下水流動保全工法による予測結果を示してほしい。地下水流動保全工法は、これまで16事例あるが、良い結果を得られた実績は無いのではないのか。

回答者

（国）

- ・ この解析に用いた条件については、環境影響評価書などに記載されており、それらは公開されているので今回は結果のみ記載している。
- ・ 今回の説明会は大深度に関するものなので、浅層地下水については記載していない。浅層部につ

いては中央 JCT などの地上改変部において、地下水流動保全工法を実施する予定。ご指摘の 16 例のうち、供用後の状況について事業者において確認できたものは 14 例であり、その内、事業に起因する新たな地盤沈下や井戸枯渇の発生は認められない、また、地下水が安定した状態になっている。

質問者

- ・ 地上部の街路（外環ノ 2）との関連性は。大深度に外環を整備するのであれば、外環ノ 2 の計画を撤回させるべきではないか。

回答者

（国）

- ・ 外環ノ 2 に関しては東京都が沿線の区市ごとにその必要性やあり方など、広く意見を聞きながら検討を進めている。

質問者

- ・ 事前の事業間調整を平成 19 年に実施済みとなっているが、外環ノ 2 に関して東京都との事業間調整は済んでいるのか。

回答者

（国）

- ・ 事業間調整については、他の事業者がその区域を使用することがあるかを調整したものであり、この結果については平成 19 年 2 月 27 日に公表させていただいている。
- ・ 大深度地下使用法に基づく地下の利用に関する調整であって、地上部については行っていない。

質問者

- ・ 車が事故を起こして火災が発生した時にガソリンなどに引火し大爆発等を起こしても大丈夫なのか。

回答者

（国）

- ・ 一般的に 5km を超えるトンネルの場合は危険物を積載した車両の通行は制限されているので、外環においてもそのような制限は今後検討していくことになるが、仮に事故により通行が制限されるようなタンクローリーの火災が発生しても、トンネルが崩壊することはないよう、設計を行っているところ。

質問者

- ・ 新聞報道では本線シールドトンネル工事の工区境が武蔵野市吉祥寺南町となっていたが、詳しい工区境を教えてほしい。

回答者

(国)

- ・ 工事を行う工区境については、現在のところ、武蔵野市吉祥寺南町とまでしか決まっていない。

以 上